

認知症ケア

心に触れ合う
 社会福祉法人 あやめ会
 特別養護老人ホーム
 中伊豆デイサービス 松永

特別養護老人ホーム中伊豆 事業内容

- ・特別養護老人ホーム中伊豆(入所) 60名
- ・中伊豆短期入所生活介護(予防) 20名
- ・通所介護(予防) 25名
- ・認知症対応型通所介護(予防) 12名
- ・グループホーム中伊豆(予防) 9名
- ・居宅介護支援事業所
- ・伊豆市中伊豆地区地域包括支援センター

はじめに

取り組んだ課題 デイサービスにおいて
 認知症ケアとは？

何から始めてよいか？

何もしていないことに
 気づく。

問題点

職員側

1. 何を提供してよいか、わからない
2. 利用者把握の内容の薄さ
3. 環境整備の不備
- ①職員の入れ替わりで、固定されていない
- ②顔がみれる位置関係ではない
4. 提供している事の一定化

利用者側

1. 居場所がない
2. 落ち着いて過ごせない
3. 馴染みがない
4. していることに飽きる

その中でも、一人の利用者に寄り添って
 いくことに取り組む

個別ケアの違いを、現場で実践して
 見よう！！！！

具体的な取り組み（方法）

- ①対象者の決定(交換日記取り入れ)
 M.Sさん 92歳 要介護1 アルツハイマー型認知症
- ②内容
 ア、バラ交換日記(交換日記の説明)を取り入れた利用者となれない利用者とのサービスの展開を知る。(個々の分析・状況・問題)
- イ、静レク、環境の改善
 日によって気分、体調が変動するため、本人の意思を尊重する。
 バラ組、固定職員を配置する。
- ウ、家族との情報の共有化。

方法：交換日記

「過去の私」 「頑張ってる私」 「現在の私」

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃的な言動 ・持ち物で不穩 ・団体行動できない ・煙草への執着 ・作業への取り組みできない | <ul style="list-style-type: none"> ・説明で納得 ・一緒に探す ・気分によって変動 ・やり方を検討 ・他者がやる事が氣にいらぬ | <ul style="list-style-type: none"> ・口調が穏やか ・なじみの職員に聞く ・行っている事への理解 ・禁煙出来たわたり ・見本を示したりする中で仕事を分担できる |
|---|---|---|

結果

M・Sさん

- ・記述することで職員間の共有ができ、確認しあえる。
- ・家族との協働。
- ・家族からの情報でその人(利用者)を支えるヒントを得られる。
- ・席の配置、固定でその人の落ち着きさが違う。
- ・職員の固定化を図ることで、信頼関係が生まれる。
- ・環境の整備をすることで本人の仕事の明確さができる。

深い情報なしの利用者

- ・関わりがその日その日で違う。
- ・記録に細かく記述することがないので、分析が甘い。
- ・家族の理解が乏しい。

具体的取り組みでの利用者の表情



落ち着いた 環境



考察 (認知症対応型として)

- ・家族の協力なしでは、支援できないと考える。
- ・M・Sさんを焦点にあて1年間追ってきた中で、交換日記を使うことで、M・Sさんに寄り添う、心のきっかけ作りが出来たとされる。
- ・家族からの深い情報の中で、人生の深さを知ることが出来たと考える。
- ・出来ることを分析し、個々の能力に合った対応を心がけることで自信や本人の仕事、役割分担ができたと考える。
- ・日によって違いがあり、無理辞意せず、気長に対応することだと考える。(職員の温度差、さじ加減)
- ・席の配慮や職員の固定化をすることで顔馴染み関係が深くなったと考える。

M・Sさんご家族様の思い

- ・M・Sさんのご家族様のご希望により、家族会を発足することになり、4月に親睦会という形で行いました。ご家族様の思いの中で、印象に残っている一部をご紹介します。

「ありがとう、とお互い言い合えるようになりました。」
「職員さんたちの、アドバイスのおかげで、本人に何があっても、動じなくなりました。」
「朝の笑顔と、夕方の笑顔が違います。」

まとめ・・・今後の課題

- ・全体を通して利用者のアセスメントの見直し(各利用者の中核症状の熟知)
- ・職員間でのカンファレンスの継続
- ・家族との情報共有の継続

おわりに

認知症ケアで大切なことは、
その人(達)の、心を抱きしめてあげる事
それが、寄り添うケアの原点だと思うのである。

ご静聴

ありがとうございました。